



新世紀を迎えて

日本理化学協会会長
都立武蔵高等学校長

菊池正仁

新世紀を迎えて、教育は大きな変曲点にある。特に高等学校教育は、従来の普通科教育・専門科教育、全日制と夜間定時制という単純な構造から、総合制・単位制・昼間定時制・中等教育学校など特色化に向けて大きな改革が進行し、単位取得・高大連携など規制緩和も着々と進行している。

このような変曲点の中で、理科教育を考える視点としては、

- (1) 理科教育は、なぜ必要なのか。
- (2) どのような生徒に、どのような科学的知識と科学的思考力をつけさせることが必要か。
- (3) そのためには、小・中・高・大を通して、どんな教育課程が望ましいか。

という、いわば原点に戻って考えることが必要だと考えています。

そして、このような作業を総合的に進め、現在進められている新しい特色ある学校や新教科「情報」あるいは「総合的な学習の時間」などとリンクしていくためには、現場の理科の教員が全体として取り組んでいくことが必要です。そのためには、今まで以上に理科教育の研究団体の連携が必要で

です。日本理化学協会では、ビジョン検討委員会を作り、このような理科教育の課題にいかにしてどのように取り組んでいくかを検討して参りました。その結果、新しい世紀の理科教育の在り方を現場

で考え、その声を文部科学省を始め、関係諸機関に訴えていくためには高等学校の理科教育研究団体の連携に向けて協会が積極的に働きかけて行くことが必要であるという会員の方々からの意見が集約されました。

このような会員の先生方の意向を受けて、現在日本理化学協会として日本生物教育会、日本地学教育学会、東京都高等学校理科教育研究会、東京都高等学校理化教育研究会、東京都高等学校生物教育研究会、東京都高等学校地学教育研究会の各会長の先生に呼びかけて、具体的な連携の可能性について協議を始めております。(仮称理科教育研究団体連絡会・東京について代表の方をお呼びしたのは具体的な問題点がより明らかになることや出来れば東京都の段階での連携を模索していただくためです。) まだまだ話が始まったばかりですが、現時点では平成17年の大会はどの研究会も開催地を決めていないということなので、出来れば平成17年度の大会を全体で開催できればと考えています。勿論各団体の歴史や伝統、会としての主体性など色々な課題があります。慎重にしかし着実に進めていきたいと考えています。

最後に、先日の全国理事会でご承認いただきましたように平成16年1月に理科教育振興法制定50周年記念式を挙行したいと思います。先ほどの日本生物教育会や地学教育学会、原子科学技術教育研究会など高等学校の理科教員の関係する理科教育団体と、全国小学校理科研究協議会や全国中学校理科教育研究会などに現在呼びかけています。

まとまったところで準備会を発足させ、従来からの経緯もありますので理化学協会が中心となって進めたいと考えております。会員の先生方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成12年度全国理科教育大会 愛知大会を終えて
第71回 日本理化学協会総会

愛知大会事務局長
愛知県立高浜高等学校
岡 謙 二

平成12年度全国理科教育大会の開催県をめぐって、東海ブロックの中で調整が大幅に遅れ、結局、愛知県での開催が決定したのは、残り僅か1年余りという時でした。折しも経済状況が大変厳しく、愛知県では全教職員も給与カットを余儀なくされた時期であります。「このような時期に大会運営の費用が捻出できるのかまったく自信が持てない」という声がある一方で、「8年前の平成3年度に愛知において全国大会を実施した。その当時活躍した優れた教員が多数現役で残っている。その後、彼ら教員が核となり、現在では、愛知の理科教育が力強く推定されている。これは全国大会に取り組んだことの貴重な財産であり、再度、全国大会を受けることで、この財産をさらに増やそうではないか。お金のない分、智恵を出して頑張ろうではないか」この号令のもとに愛知の物理・化学の教員が結束しました。大会まで許される時間は1年4ヶ月、精力的な行動開始の運びとなりました。

まず、愛知県理化研究委員会をそのまま準備委員会に移行、準備委員長を選出して組織を立ち上げ、直ちに、本部の御指導を頂きながら開催日時を決定し、会場の確保に当たりました。併せて、大会主題の検討に入り、「理科教育を拓く新世紀」－環境と人の調和をめざして－と決定しました。続いて、全国からより多くの先生方が少ない旅費で大会に参加できるようにと、これまでの日程を大幅に変更しました。大会参加に必要な宿泊日数が少なくできるような日程にしたのです。その1つに、常務理事会を午前10時30分から開催し、引き続き全国理事会・研究代表者研究協議会を行うことで、従来、2日間で実施していたものを1日に圧縮したこと。2つ目に、近県の先生方は一泊でも記念講演・研究協議会・研究発表会に参加できるように、大会2日目の開始時間を従来より30分遅らせ午前10時30分にしたこと。また、全体協議を取り止め、これまで大会初日に実施していた文部省講話を2日目に移して、全国理事以外の一般の先生方も拝聴し易いように改めました。

予算面では、大会参加者を従来より少な目に抑さえ、大会運営の総額を690万円としました。収入額が減れば支出を抑さえなければなりません。支出の60%を超えるものに印刷費があります。上限450万円に抑さえたいということで、会誌2号の廃止を考えましたが、規約上無理であるとの協会からの指導により断念。次に、会誌2号を冊子ではなくプロッピーでの配布を検討しました。しかし、何冊かは冊子にする必要があること、原稿を完成し全参加者分の枚数をコピーして郵送する手間暇を考

えますと、物理的に大変困難であるとの結論に達しました。最終的には、1号誌と2号誌共にプロッピーに入力し、完成原稿を写植印刷、カラーページの減、1号誌と2号誌の重複内容部分の削除により2号誌のページ数を出る限り削ることで、経費の節減を計ることにしました。また、大会運営には企業の方々からの御援助も頂かなければなりません。経済状況が大変厳しい時節柄、飲み食いを伴う教育懇談会を自粛させて頂くことにしました。大会の中身で勝負して、おみやげをたくさん持ち帰って頂くということにしました。

21世紀の幕開け、その第1回が愛知大会からスタートするという幸運に恵まれ、今世紀の大会のあり方、持ち方の方向性を示唆する大会、という自負のもとで運営に当たってまいりました。次期開催地の徳島県も、愛知大会の有り用を踏襲すると、打ち出して頂きました。大変嬉しく思っております。今回、徳島県から19名という多数の先生のお出でを頂きました。誠に有り難うございました。改善すべき所、我々が気がつかなかった所はどしどし手直しして頂き、さらに充実した実りの多い立派な大会にして頂けるものと確信しております。よろしくお願いたします。

平成12年2月に開催されました研究代表者研究協議会の折、例年ですと、意見提示者・座長の割り当てを巡って、各都道府県の奮い合いとなり、譲り合う調整に難航したものです。ところが今回は、意見提示者・座長共に引き受け手がない分科会がありました。5月になっても埋まらないため本部の先生方も大変お困りになり、東京都や愛知県で穴埋めをして急場をしのぐという舞台裏がありました。実のところ、この時、不吉な予感を抱きました。大会参加申し込み締め切りの6月10日段階では、申込者数は愛知県250名を含め、600名余りでした。このままいけば、大会事務局の校長先生、一人当たり10万円程の負担も覚悟しなければならない事態になると悲痛な思いでありました。早速、愛知県の全ての高校に電話を入れ参加について増員を依頼し、併せて、本部中山先生のお力をお借りして、各ブロックの事務局を通じて全国の理科の先生方に、再度、参加の呼びかけをしていただきました。

大会開催の運びとなりました。何と、当日受付で新たに100名を超える先生方に参集して頂けたのです。最終的に、参加者総数は822名にもなりました。そして大会を成功裏のうちに終えることが出来たと思っております。これも、素晴らしい御講演や御講話を頂いた講師の方々、そして、何よりも全国からお越し下さった意見提示者、研究発表者や会員の皆様方の熱意のおかげであるところから感謝申し上げます。また、本部役員の先生方には事細かに御親切に御指導を賜りました。東海ブロックの役員の先生方からも御協力・御支援を頂戴しました。改めて、この紙面にて厚く御礼申し上げます。

日本理化学協会ビジョン検討委員会 経過報告(最終)

委員長
都立大崎高等学校長
星野佳正

1. はじめに

ここでは、主としてビジョン検討委員会の報告書「高等学校理科教育の在るべき将来像を求めて」に示した提言に係るその後の検討結果、及び提言に対する今後の対応について報告する。

2. 検討経過

(1) 第11回 平成12年11月6日(月)

(於 神楽坂エミール 18:00~21:00)

第一次報告書の提言内容について、次のような意見交換を行った。

ア 外部と関わりのある活動

(ア) 理科としての高校団体の一本化について

① 具体的な取組みに係る意見交換

一本化を進めるに当たって、配慮すべき具体的な内容の項目として、会長、事務局、役員組織、全国大会、研究発表会の形態、資金の調達、一本化のための会談(時期、メンバー)などがある。

(イ) 理科教育の啓発活動を実現するための課題

① 教員への指導

講習対象、講師手配、小学校側からの要望の有無、教育委員会での開催、運営経費、運営方法、現在の高校研究会への小中理科教員の参加など。

② 生徒の部活動の推進

高レベルを期待しない。小さな活動でも発表できる場を考える。表彰をするなどで奨励する。

部活動の衰退、文化祭での理科部発表の減少、地味な研究の評価推奨、高文連に準じた理科の研究発表・評価、日本理化学協会賞の交付、文化祭への出張審査、地域活動への出前審査、各支部団体ごとでの開催、対外試合的行事、他校生徒との交流など。

(ウ) 文部省や社団法人・財団法人等との関わり(緊急課題として)

① 全国大会の決議について

中身と要望をより具体的に。要望事項を絞って提示する。

早期に着手して中身を審議。次の教育課程改訂に反映できるように検討したい。

② 教育課程に係る理科の問題点

学習指導要領の改定等に際しては、協会が教育課程を作成して示す。

イ 本協会内部の問題点の改善

ホームページ(HP)の活用、全国大会の時期、ポスターセッション・研発表時間等の検討

ウ ビジョン検討委員会報告書に示した提言の扱い

早急に各都道府県理事並びに本会顧問及び名誉理事にアンケートを実施し、提言についての支持率を調査し、施策に移すべき提言を精査することを確認する。

(2) 提言についてのアンケートの実施

提言について、「賛成」「反対」「保留」のいずれであるかを、理化学協会の各都道府県代表理事、及び本会顧問・名誉理事に対してアンケート調査を実施した。(平成12年11月7日~11月17日)

(3) 第12回 平成12年12月12日(火)

(於 理化学協会事務局 18:00~21:00)

ア 事務局より提言に係る調査結果の報告及び検討

回答数：A-団体43、B-顧問・名誉理事40

提言		賛成の数		%
No.	概要	A	B	
1-①	理科組織一本化	40	37	92.4
2-①	教員の啓発活動	40	34	89.2
2-②	生徒発表の機会	29	27	67.5
2-③	ホームページの活用	43	38	97.6
3-①	行政への提言	38	38	91.6
4-①	大会時期の検討	19	24	51.8
4-②	ポスターセッション拡大	35	30	78.3

イ ビジョン検の今後の活動について協議

各提言を進めることを前提として、1-①については、課題、方策の一覧を、ビジョン検(理化学協会)として作成するかを検討の結果、生物部会、地学部会との共同作業とすることに決定する。

(4) 第13回 平成13年1月15日(月)

(於 理化学協会事務局 18:00~21:00)

ア アンケート結果に対する検討

アンケートを分析した結果、上記表の提言について、次のように意思確認を行った。

・積極的な支持 - 施策に移す。

1-①, 2-①, 2-③, 3-①, 4-②

・積極的な支持 - 施策に移すかはさらに検討。

2-②

・不支持 - 施策から外す。 4-①

イ ビジョン検討委員会の今後について

① 当初計画した範囲での検討は、今回で終了する。

・検討委員会からの提言に基づく具体的施策は、今後は日本理化学協会として実行に移す。このための組織などは、別途構築する。

② 本検討委員会は、これまでのような月1の定例会を廃止し、2001年9月までは協会のシンクタンクとして、必要に応じて会合を招集する。

・2001年9月をもって、解散する。

・第二次報告書は作成しないが、徳島大会資料にデータを収録する。

協会本部だより (12年7月～13年1月)

- 7月4日 徳島大会一次案内の原稿受領
 7月7日 部長会第4回 神楽坂エミールにて(4名)
 7月12日 文部省及び協力関係団体に大会臨席お願い
 7月14日 第9回ビジョン検討委員会を神楽坂エミールにて開催(8名)
 7月15日 協賛団体、大学、会社に大会臨席お願い
 7月17日 愛知大会会誌の最終校正
 7月21日 会報38号合同印刷より納品(各支部団体4500部、愛知大会1000部、協会事務局500部)
 7月26日 研究紀要27～31巻を愛知熱田高校に発送
 7月27日 ビジョン検討委員会第一次報告書を世田谷工業高校にて印刷作成 菊池会長、鹿児島での九高理事會に出席して九州大会開催を依頼
 7月28日 表彰状、協会賞記念品、ネームプレート、理事会資料等を愛知に発送
 8月2日 愛知大会事務局会議 ルブラ王山にて(7名)
 8月3日 愛知大会第1日目 ルブラ王山にて
 常務理事会を千成の間にて開催(31名)
 全国理事会研究代表者研究協議会を飛翔の間にて開催
 特別講演「科学技術の発展に即した望ましい理科教育の在り方」玉川大学教授 山極 隆氏
 8月4日 愛知大会第2日目 名古屋市教育センターにて
 開会式・表彰式、総会、記念講演、全体協議
 文部省講話「考える力を育む理科教育」
 文部省初等中等局主任視学官 江田 稔氏
 記念講演「カガクにおける右と左」
 名古屋大学大学院理学研究科教授 野依 良治氏
 8月5日 愛知大会第3日目 名古屋工学院専門学校にて
 研究発表(10会場)研究協議(8会場)科学の広場
 8月7日 愛知大会会誌第1号120部を受領
 8月11日 研究発表文集22巻30部を受領
 文部省ほか協賛団体に礼状と大会資料を持参提出
 8月24日 未加盟4団体に会誌第1号、会報37・38号送付
 9月1日 会長・副会長・監事・近県常務理事・新名誉理事、各部部长(所属理事分同封)に委嘱状、関係資料を送付
 9月5日 顧問に会誌1号、ビジョン検討委員会一次報告書、会報38号等を送付
 9月7日 大会参加事務局に礼状、事務局連絡を送付
 9月8日 大会不参加事務局に会誌1号、ビジョン検討委員会一次報告書、会報38号等を送付
 9月14日 会費納入名誉理事に挨拶状、ビジョン検討委員会一次報告書、会報38号等を送付
 9月18日 会費未納名誉理事に上記に会費請求を加えて送付、3年以上会費未納名誉理事に継続・辞退の伺い

- 文書送付
 9月26日 各支部団体宛に補助金申請用の国公立私立学校の会員数をFAXで問合せ
 10月6日 第10回ビジョン検討委員会 巣鴨にて(4名)
 10月12日 北原三郎元副会長の訃報 11日逝去
 各支部団体学校数調査 全支部より提出完了
 10月23日 部長会第1回 巣鴨にて(7名)
 10月27日 パソコンのプロバイダー OCN との契約をコミ・デ400に変更、OCNにWEBアカウント登録
 11月6日 ビジョン検討委員会第11回 神楽坂エミールにて(16名)
 11月7日 日本教育研究連合会全国大会 文京シビックホールにて 大木榮夫先生表彰
 ビジョン検討委員会の提言についてのアンケートを全支部団体にFAXにて依頼
 11月11日 常務理事会 モノリス29にて(20名)
 11月12日 全国理事会・研究代表者研究協議会 都立城南高校にて(47名)
 講演「自然科学を織り込んだホラの楽しさ」
 情報ハブ株式会社代表取締役 加藤 良平氏
 11月14日 補助金申請書を全日本中学校長会に提出
 11月16日 原子の日記念中高校生論文入選者表彰式に事務局長出席
 11月17日 ビジョン検討委員会の提言についてのアンケートを顧問・名誉理事に依頼
 11月27日 会費未納団体、名誉理事に納入を依頼
 11月29日 理科教育振興協会にて理科教育振興予算に関する書類に会長印押印処理
 11月30日 日本理科教育振興協会理事会に会長出席
 12月1日 ビジョン検討委員会の提言についてのアンケートを、全支部団体より受領
 12月4日 論文審査委員の委嘱と委員会の案内を発送
 愛知大会事務局より会誌第2号50部を受領
 12月5日 文部省・大蔵省に理振関係予算陳情 会長、小、中、理振協会関係参加
 12月12日 ビジョン検討委員会第12回 巣鴨にて(10名)
 ビジョン検討委員会アンケート集計結果を団体・顧問・名誉理事に送付
 12月13日 論文審査委員会 東京女学館高等学校にて(8名)
 12月14日 全国理事会等案内を庶務部より発送
 12月25日 文部省へ年末の挨拶
 12月26日 経理部長と会計の見直しについて協議
 1月9日 文部科学省へ新年の挨拶
 1月15日 ビジョン検討委員会第13回 巣鴨にて(11名)
 1月16日 調査部会 都立小石川工業高校にて(6名)
 1月18日 後援申請用徳島大会実施計画・日程を作成
 1月19日 経理部長と更正予算案を検討
 1月25日 全日本中学校長会より補助金の内示あり
 1月26日 第2回部長会 巣鴨にて(7名)
 (文責 事務局長 中山 雄一)



庶務部の役割

庶務部長
都立清瀬高等学校長

山本 日出雄

協会の目的は、高等学校物理・化学教育の振興をはかる、高等学校理科教育の向上に資する、会員の親睦を深める、小・中・高・大学相互の理科教育の連携を密にすることです。この目的を達成するため庶務部は、会長・事務局・各部と連絡をとりながら、本会庶務の執行、全国理科教育大会及び理事会に関する事務、支部との連絡、渉外に関する事務等の役割を担っています。

本協会の運営の中核は、常務理事会・全国理事会・研究代表者会議で、すべての案件を議論し方向を決めています。庶務部理事8名は、この定例会を大切に、会員諸氏が本会の主催する研究会の情報や知識をもとに、お互いに勉強し合い、自校で生き生きと誇りをもって教育活動に当たることができるよう取り組んでいます。

具体的な実務は、年四回（11月、2月、5月、8月（全国大会））の常務理事会・全国理事会の会場・議題・運営・事業計画・講演等、会長・事務局・各部との連絡調整、190名（常務理事54名、名誉理事89名、県代表理事・事務局47名）への定例会ご案内の発送、全国理事会の受付・司会・記録・議長の依頼・報告書作成、常務理事会び進行、役員、役員名簿の確認、各都道府県理化功労者推薦用紙の発送等です。特に事務局との連絡を密にして、常務理事・全国理事・研究代表者を通じて全国の会員に情報が共有できるように進めています。

庶務部に限ったことではありませんが、年々理事の方々が、校務の多忙化や出張や職免申請の許可が難しくなり、円滑に任務を全うする事ができない現状があります。手を抜くことができない要の部署であるという認識のもとに、これからも会長・事務局との連絡を密にし、各都道府県代表理事・事務局との連携を図って、組織づくりに努めるとともに、業務を機能的にとり進め、最新の確かな情報を会員に提供していきたいと思ひます。今後も会長のリーダーシップのもとに各部・都道府県の活動の活性化、運営の円滑化に努め、さらに本協会の発展に全力を注ぐ所存です。

常日頃の協会の充実に向けての顧問・名誉理事・各都道府県代表理事・事務局長の方々の指導・助言や各会員のご理解ご支援に深く感謝するとともに、さらなる皆様方のご協力をお願いいたします。



経理部報告

経理部部长
都立大泉高等学校長

高橋 公治

会員各位には、協会の諸事業にご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。また、各県支部には、財政状況の厳しい中、会費納入では多大なご苦勞をおかけしております。すでにご承知かと思いますが、本協会の財政状況は年々厳しくなっており、平成12年度も緊縮予算のもと、なんとか目的に沿った事業を実施しております。

2月4日の全国理事会に於いて、今年度の更正予算（中間決算）をご了承いただきましたが、今後とも本会をご支援いただくため、この場をお借りして、協会の経理についてご説明いたします。

収入部（平成12年度収入は約640万円を予定）

- (1) 会費支部：1校500円（各支部でとりまとめ）
- (2) 同 個人：2千円（紀要配布）
- (3) 同 特別：顧問1万円、名誉理事5千円
- (4) 同 賛助：10万円（趣旨に賛同いただいた方）
- (5) 国庫補助：107万円（平成12年度）

本会の収入は主に上記によるもので、個人会費を納入された方には、研究紀要をお配りしています。賛助会員は、今年度14団体あり、経済状況の厳しいなか、事務局長のご努力で昨年実績を越える、約250万円の会費を納入いただきました。また、文部省の国庫補助金は例年より増額されましたが、この度、文部科学省に衣を変えたことにより、来年度からの見通しは立っておりません。

支出の部（金額は平成12年度予算）

- (1) 研究調査費：170万円（資料費、大会補助費）
- (2) 研究成果刊行費：115万円（研究紀要、会報2回発行）
- (3) 事務局費：320万円（通信運搬、事務室賃貸、職員手当）

研究調査費及び研究成果刊行費は、国庫補助金申請の根拠となる支出です。今年度の補助事業は、研究発表論文（資料）集、研究紀要、会報作成等であり、費用の半額が国庫補助金です。

本協会は、大正15年の創立以来、理科教育の充実発展を図るため、科学教育の振興に努めてきました。各支部並びに会員各位には、大変なご努力の中で、会費を納入いただいておりますが、協会の財政基盤確立のため、今後ともご協力をお願いいたします。



事務局よりの メッセージ

事務局長

中山 雄一

理科教育にかかわっている皆さん、こんにちは。

協会本部事務局は、巢鴨駅から南に徒歩1～2分のマンション2階の一室にあります。過去の資料がだんだん増えてきて手狭な感じですが、事務局長ただ一人だけです。仕事をするには不便を感じません。この部屋で10名位の会議ができると好都合ですが、5～6名が精一杯でしょう。

協会の活性化 事務局に勤めて2年半が過ぎました。大切な仕事をお引き受けして、何かお役に立てればとその気で取り組んでいます。いまだこの研究団体も運営に苦労しているようです。本協会も同様ですが、幸い日本理化学協会は、会長を中心にして、活性化の方向にあるように感じられます。

21世紀における日本理化学協会の将来像策定のために、ビジョン検討委員会を中心にして検討を始めましたが、アンケート等を通じて多くの方々のご意向を知ることができ、交流が深まっていくように感じられます。

率直な感想ですが、支部の事務局から本部への返信が最近では早くなっているように思います。ビジョン検討委員会アンケートや学校数調査については、43の団体すべてが回答を寄せてくれましたし、現在年会費はすべて完納です。また、顧問・名誉理事の多くの方々は年会費を納入してくださって、会を支援してくださっています。事務局担当者としては、気が晴ればれて、やる気が起こります。

文部科学省や日本理科教育振興協会、その他の関係者の皆さんも、日本理化学協会の存在を大切に思っていることが肌で感じられます。これらの方々とも日本の理科教育のために交流を深める必要を感じて、いろいろな会にもできるだけ出席するように心がけています。

IT関係 事務局の設備はおかげさまで整ってきました。

FAX、コピー機、パソコンなど、十分に活用できる状態です。Eメールは簡単な連絡には好都合です。仕事以外のささやかな交信でも、親密になったような気持ちになります。

理科教育に関すること、協会への要望など、感じることが多くおありでしょう。手紙でとなると構えてなかなか書けませんが、なぜかメールはそれが容易です。どうぞ率直に気楽にメールを送ってください。

協会のメールアドレスは

nirika@mint.ocn.ne.jp です。

2月の全国理事会で、教育情報委員会が認められました。まもなく委員が決まって活動が始まることと思います。念願のホームページもやがて開設できると期待して

います。

協会のURLは

<http://www4.ocn.ne.jp/~nirika/> です。

全国大会 今年の全国大会は徳島市で開催されます。徳島大会事務局を中心に着々と準備が進められています。4月に各団体事務局宛に案内書が届きますので、ぜひご参加ください。

では、徳島でお目にかかれるのを楽しみに。お元気で。



調査部会の 活動あれこれ

調査部長

都立小石川工業高等学校

岡野 敬徳

私が、調査部（理事）の仕事に携わって17年経ちました。

初めのうちは、何となく宛られるままに作業をしていたと思います。平成元年からコンピュータにまつわる調査を始め、5年に渡って調査しました。当時の前田調査部長は、その結果を持って文部省（当時の）に行き、理科振興法の備品リストの改定でコンピュータの導入を実現させるのに調査結果が大いに役立ったと話してくれました。その時、調査部の役割が分かり、実感したところでした。

初めの頃の調査の集計は、7月夏休みに入って、冷房のない部屋での手作業でした。そして、人海戦術のマークシートでの集計を経て、この数年間はコンピュータでの集計作業になりました。いつの時も理事の先生方の協力あつての集計作業でした。

調査部の役割を自分なりに理解して、調査部長になってから、調査項目の選定に当たっては、時代のニーズにあった調査・何かを提言できる調査であることを念頭に入れて、調査項目の検討に当たってきました。

現在、理科を取り巻く環境は、厳しい時代を迎えています。全国規模で行われる調査を基にして、出来たら理科のあるべき姿を提言していきたいものです。皆様から、調査項目の提言をお寄せ下さい。

アンケートの回答数は、平成の初めの頃は千通近くの回答をいただきました。しかし、最近の5年間は500通を下回るようになりました。ちょっとばかり寂しい数字です。回答数のアップの方策は、都道府県の事務局に、新年度の総会に間に合うようにアンケート用紙を届けることと分かっています。しかし、調査項目の検討を重ねて印刷・発送となると、いつも6月はじめとなってしまいます。各都道府県の事務局から配布のご協力をお願いするところです。



研究部の報告

研究部長 東京学芸
大学附属高等学校副校長

丹伊田 敏

研究部報告

本協会研究部の業務の紹介を簡単に致します。

(1) 役割

研究部は、日本理化学協会規約の内規に運営を円滑に行うとして、以下のように定められている。『本会の研究に関する企画並びにその推進。全国理科教育大会における論文集の企画、研究成果刊行物のとりまとめ。』とある。

(2) 研究部理事

理事等の人数の定めはないが現在は、研究部長、副部長（4名）は常務理事、そのほか研究部理事13名、総勢18名で運営をしている。（会誌1号参照）

(3) 研究部が関係している委員会

研究部の主な業務に関係が深い三つの委員会の活動を援助・推進している。

大学入試問題検討委員会（大学入試問題が高校理科教育に及ぼす効果や影響を検討する機関として在る。現在は主に大学入試センター試験の問題を検討し、意見を大学入試センターに答申している。）

論文審査委員会（全国理科教育大会での研究発表と各都道府県研究会誌の研究から、本協会の研究成果の一部としての論文と成り得るものを選び、研究紀要の掲載予定論文として推薦している。）

環境教育検討委員会（環境については環境科学の立場では理科教育がその担い手となることから、将来をも視野に入れた検討を行っている。）

(4) 主な年間スケジュール

8月～11月 第1回研究部会（兼論文審査委員会）

研究部理事の委嘱、大学入試センター試験問題の全国都道府県研究会向けアンケートの準備、各都道府県研究会誌からの研究成果論文の推挙などを行う。

11月～2月 第2回研究部会（兼大学入試問題検討委員会）

主に、大学入試センター試験問題に対するアンケートの結果の集計と問題の検討及び意見の集約を2月中旬に行う。

12月 論文審査委員会（会長委嘱の委員と研究部・編集広報部推薦の委員からなる）

全国理科教育大会で研究発表されたものから本協会としての研究成果となるのを推挙する。

2月～5月 各都道府県研究会誌の内容分析からの研究動向の調査

全国理科教育大会での報告に向けて作業。次年度の研究部理事の推薦の作業。

5月～8月 全国理科教育大会の準備と参加

(5) 今後の課題として

研究部の業務は上記のように明確にされているが、本来は本協会は研究団体である故の決められた業務の他に一過性の課題や、長期的課題が理科教育界にはあるはずである。それらを察し、または依頼されることもあるが、そのような諸問題・課題の処理をするのも研究部の仕事と言えよう。最近の例では次期学習指導要領の作成期における理科教育の現場の意見の反映やそれに関わる情報の提供が行われたのも研究部であった。今後も先端的予測による理科教育の推進の担い手になる研究部である事が本協会としての重要な位置であると思う。

『日本理化学協会研究紀要第32巻』の発行と申し込みについて

平成13年3月末発行の『日本理化学協会研究紀要第32巻』には、平成12年度全国理科教育大会・第71回日本理化学協会総会（愛知大会）における全国理科教育論文集第22巻と各支部から協会本部に届けられた研究誌のうちから研究部が推薦したものの中で、研究紀要論文審査委員会が慎重に選考したもの及び平成13年度大学入試センター試験問題についての意見を掲載しています。

研究紀要のお申し込みは、郵便局の「払込取扱票」に所定の事項をご記入の上、郵便局（口座番号 10160-6-149192）の窓口にて1部につき2,000円を添えてお申し込み下さい。

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-11-2

巣鴨陽光ハイツ 206

日本理化学協会 事務局

(TEL・FAX 03-3944-3290)

多くの会員の方々のお申し込みをお待ち致します。

広報編集部

北村正生 宮本正彦 馬目秀夫 石川直弘

鳥居雄司 黒田橋彦 三池田修 山本進一

峰岸文男 小野昌彦 仁井田孝春

徳島大会開催にあたって

大会運営委員長
徳島県立辻高等学校長
岡田 静明

21世紀を迎え、情報技術や生命科学をはじめ科学技術の発展にはますますめざましいものがあります。その中で自然や人間自身との協調を図りつつ生活していくためには、理科教育を通して自然科学についての基礎的な内容や考え方を正しく理解することが必要です。また、実験・実習等の体験を通して自ら学び、自ら考え、自ら創造することが一層重要になってくると思われます。より高度化・複雑化した社会の中を主体的に生きる人間を育てることが、理科教育にも求められております。

徳島大会は中・四国ブロックの会員のご協力のもと、次のような予定で開催することになりました。講演、研究発表、研究協議等を通して21世紀を担う人間を育てる理科教育の在り方を探るとともに、会員の方々の指導力の向上に役立てれば幸いと考えております。

会員の皆様方の積極的なご参加を心よりお待ちしております。

【大会名称】平成13年度全国理科教育大会 徳島大会
第72回日本理化学協会総会

【大会主題】21世紀にはばたく理科教育
～自ら創造し生きるために～

【主催】日本理化学協会 日本理化学協会中・四国ブロック各県支部 徳島県高等学校教育研究会理科学会

【共催】徳島県教育委員会 徳島県高等学校教育研究会

【後援】文部科学省 全国都道府県教育委員会連合会
中・四国各県教育委員会 徳島県高等学校長協会 徳島市教育委員会 日本物理教育学会
(社)日本化学会 (社)化学工学会
(社)日本理科教育振興協会
日本教育用理科機器協議会

【期日】平成13年8月1日(水)～8月3日(金)

【会場】徳島文理大学 徳島市山町西浜傍示180

【事務局】〒770-0872 徳島市北沖洲1丁目15番60号
徳島市立高等学校
事務局長 尾崎 好秋
TEL 088-664-0111
FAX 088-664-5144

【日程】〈8月1日(水)〉

10:00～10:30	常務理事会受付
10:30～11:30	常務理事会
11:30～12:00	議長団打合せ
12:30～13:00	受付
13:00～14:30	全国理事会
14:30～15:30	特別講演
15:40～16:30	研究代表者会議、研究協議会

〈8月2日(木)〉

10:00～10:30	受付
10:30～11:20	開会式、表彰式
11:20～12:00	総会
12:00～13:00	昼食
13:00～14:00	文部科学省講話
14:10～15:40	記念講演
16:00～16:30	研究発表・研究協議会打合せ

〈8月3日(金)〉

9:00～9:30	受付
9:30～12:30	研究発表
12:30～13:30	昼食
13:30～15:30	研究協議
15:30～15:40	閉会式(各分科会)
10:00～15:00	科学の広場

【参加費】 7,500円

【申込先】 JTB徳島支店

徳島大会のご案内(参加申込書)は4月に全国送付いたします。ご参加よろしくお願ひします。

参加申し込み	6月11日(月)まで
研究発表申し込み	5月31日(木)まで
発表原稿	6月11日(月)まで

明石海峡大橋・瀬戸大橋・瀬戸内しまなみ海道

四国は陸路 おいでなして徳島へ!